

母壑

2021・10・28

illustrated by Kurumi

VOI-62

『子どもに嘘をつかれたら』 いのはなはるこ

子どもが嘘をつくのは、

① 空想 ② 怒られたくない ③ 褒められたい です。

子どもに嘘をつかれると、ママはショックを受けます。

「どうして私に嘘を言うんだらう？」と。

私も、子どもたちに嘘をつかれっぱなしです。

「7才までは夢の中」という本もありますが、7才くらいまでの子はファンタジーの中に生きています。空想はその子の想像力になっています。現実ではない作り話をしても「嘘でしょ！」と強く否定することもないのです。

怒られたくない・褒められたいために嘘をつくのは知恵が出てきて、ママの顔色を見ているということです。

本当に嘘が上手になり、私も何度もだまされました。次男が中学生の時には「うちの子は嘘を言っていないです！」と先生方に大見得を切って、あとから大恥をかいたこともあります。あれが嘘なら、次男は男優賞です。

子どもに嘘をつかれたら・・・ママが考える時間です。叱りすぎているか？まったく褒めていないのではないか？刑事でも裁判官でもないのに、嘘を問い詰めても仕方ありません。どうして嘘をつかなかればならなかったのか？子どもの気持ちを考える時間です。ママの顔色ばかり見ているのは、自分の考えで行動しなくなります。怒られるから、褒められたいから、という基準で小さく動くようになります。

大きくなった5人の子たちは嘘をつかなくなりました。もう私のことなど怖くもなく、褒められなくても平気なのでしょう。嘘をついたりつかれたりしながら、傷つきながら育ててきた毎日。いつかはママの顔色なんて気にしないで生きてくれる。そう思いながら、6才の末っ子の小さな嘘と付き合っています。

harukoinohana1717@gmail.com

